

# まちなぎ できごと

Town Topics



5/28

6/23



6/6 新十津川小学校



6/20 新十津川保育園



6/5 新十津川中学校



6/11 シルバーオリンピック



## 運動会 体育大会 特集

**6/20 開町125年記念式典  
戦没者・開拓物故功労者・  
消防殉職者追悼式**

平成27年度戦没者・開拓物故功労者・消防殉職者追悼式と開町125年記念式典が、菊水公園で開催されました。式典には、奈良県から松谷幸和副知事や山本進章副議長、母村・十津川村から更谷慈禧村長が参列したほか、町内外から245人が参加し、厳粛な雰囲気の中、執り行われました。



△功労表彰受賞者



△感謝状贈呈者（永住功労）

**功労表彰受賞者**  
自治振興  
植田 満さん 平澤 豊勝さん  
樋坂 里子さん 占部 純一さん

**感謝状贈呈者**  
永住功労  
朝倉 トモ子さん 阿部 正雄さん 井上 カネ子さん 木村 照久さん  
工藤 ちせさん 坂本 数雄さん 坂本 一由さん 曾我部 梅夫さん  
高橋 三四郎さん 千葉 たみさん 栃原 則人さん 長太 忠雄さん  
仲筋 哲夫さん 新野 照子さん 西村 清夫さん 長谷川 アイ子さん  
福士 チセさん 堀田 清子さん 松倉 譲さん 松原 トシさん  
松山 作光さん 宮井 辰夫さん 向井 ミネ子さん 山本 俱子さん

**高額寄附**  
深瀬 幸子さん 齊藤 稔さん 長谷川 アイ子さん 菅原 清さん  
植田 満さん 佐川 純さん

6/20-21 陶芸まつり 晴天の中、大盛況

改善センター前で、観光協会主催の第21回陶芸まつりが開催され、2日間で3,800人が来場し、陶芸家の作品に魅了されました。

会場の一角には、陶芸家がろくろを回して実演するコーナーや、実際に陶芸体験ができるコーナーもあり、人気を集めていました。



6/14 健全育成のつどい ゆめや希望を語る

ゆめりあで、青少年健全育成のつどいが開催されました。

「ゆめ・希望・願い」というテーマで、小中学生から応募された計246点の作品の中から、優秀作品に選ばれた小中学生各4作品の発表のほか、新十津川農業高校を代表して、3年の池田奈央さんからの意見発表が行われました。

小学生の部では高橋賢新くんが、中学生の部では上村佑衣奈さんが最優秀賞に輝きました。



6/21 第39回北海道道場少年剣道大会 尚武会が3位入賞

苫小牧市で開催された第39回北海道道場少年剣道大会（全日本剣道道場連盟主催）で、新十津川尚武会（南大祐くん、小野眞之介くん、高橋賢新くん、伊藤大知くん、山内麗生くん）が団体戦小学生の部で3位に輝きました。

6/23 模型の寄贈 開館20周年の記念に

大関隆志さん（中央区）から、昨年9月の役場庁舎に続き、図書館とスポーツセンターの模型が贈られました。

図書館は、役場庁舎やスポーツセンターとは違い曲線が多く大変で、一度は作製を断念したそうですが「図書館の20周年にあわせて作りたかった」と3か月かけ仕上げられました。



6/1 地域おこし協力隊第1号着任 「まちを盛り上げたい」

新十津川町第1号の地域おこし協力隊として、高野智樹さんが着任しました。高野さんは埼玉県の出身で、地域おこし協力隊としての任期は、6月1日から平成28年3月までです。

高野さんは、「町民の方々の協力や支援をいただきながら、町を盛り上げて行きたい。力の限り、できることから取り組んで行きたい」と話し、すでに新十津川町の魅力を発信する計画も浮かんできているようでした。



5/28 ノルディックウォーキング教室 楽しんでウォーキング

シニアいきいきクラブ「ノルディックウォーキング教室」がふるさと公園内で行われました。

昨年度に続き2回目のノルディックウォーキングには、昨年の参加者5人を含む14人が参加し、ふるさと公園内を歩きました。

参加者は「みんなと話しながら歩いて楽しかったので、また参加したいです」と話していました。

6/13 とっぷ子どもゆめクラブ さかなを釣ろう

防災センター裏の総富地川上流で、とっぷ子どもゆめクラブのさかな釣り体験が行われました。

参加者のほとんどが釣りをしたことが無く、「えさの虫に触れないと釣りはできません」と先生に言われると、子どもたちは恐る恐るえさを手に取り針に刺していきました。

なかなか魚は釣れませんでした。子どもたちは初めての釣りを楽しんでいました。



6/5 人権の花運動 思いやりの気持ちを持って

人権擁護委員の出田輝義さんと阿部文子さんが新十津川小学校を訪問し、4年生の児童と一緒に花植えをしました。

人権の花運動は、共同で花を植え、花がいつまでも美しく、元気に育つように面倒を見ることで、友だちや周りの人たちのことを考える「思いやりの気持ち」を持ってもらえるようにと願いを込め行われています。

